

## アトピーのプロアクティブ療法とは？

連日のロンドンオリンピックで国民総寝不足と思います。高温多湿と寝不足で**熱中症**になり易いのですが、別の意味で**オリンピック熱中症**に罹ってしまった人も少なくないでしょう

さて、アトピー性皮膚炎の治療で最近「**プロアクティブ療法**」という**治療法**が行われてきています。プロアクティブと言うと、どこかのニキビ商品と思われると思いますが、ここでは商品ではなくアトピーの治療方法なのです。

一般的な軟膏の使い方は、湿疹がある程度良くなったら中止し、また再燃したら塗り始めるという方法です。これをリアクティブ(Reactive)療法と言います。Reは再び、activeは(活発・再燃)の意味です。

一方、プロアクティブ(Proactive)療法は、症状が出る(再燃)前に治療する方法です。Proは前もつての意味です。

ステロイド軟膏を使用すると湿疹は改善されますが、中止すると再び湿疹が悪化してきます。この繰り返しが起こります。見た目には湿疹は改善しているように見えても、皮下組織ではまだ炎症が残っているからなのです。つまり、**皮膚表面は改善されても、皮膚の中身までは治っていない**という事です。

プロアクティブ療法は、湿疹が良くなっても、すぐに軟膏を中止せず、塗る回数を減らしながら週に1~2回程、再燃しやすい部位に塗る方法です。

但し、軽症のアトピーは、軟膏で軽快した

後に保湿剤だけで十分コントロールできる場合が多いので、リアクティブ療法が適していると思います。

湿疹が改善した後も、週1~2回の軟膏を塗り続けるのがプロアクティブ療法ですが、**いつまで続けるのか治療期間がハッキリしないのが欠点**です。一般的には、リアクティブ療法で開始して、軟膏を中止するとすぐ悪化してしまう場合にプロアクティブ療法が適しているように感じています。

最後に**プロトピック軟膏**について触れておきます。プロトピック軟膏は、タクロリムスという免疫抑制剤で、ステロイド軟膏よりやや効果は落ちますが、ステロイド軟膏の副作用(皮膚萎縮や毛細血管拡張など)がありません。それはプロトピック軟膏がステロイド軟膏に比べると分子量が大きいいため、皮膚からの吸収が少ないためです。

但し、炎症が強い湿疹では良く吸収されるため、湿疹がある程度改善されてから使用します。成人用(1999年認可)と小児用(2歳以上、2003年認可)があります。

特に顔や首の湿疹に使用しますが、最近ではステロイド軟膏の代用として全身的に使用される傾向です。目の周りにもOKです。痒みやヒリヒリした刺激感があるため、まずステロイド軟膏で湿疹を改善した後に、1日1回夜に塗るよう指導しています。

(寝不足のたまなは)

